

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500447		
法人名	やまどり福祉会		
事業所名	グループホームぽっかぽっかの家		
所在地	胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3		
自己評価作成日	平成21年11月3日	評価結果市町村受理日	平成22年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372500447&SCD=370
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成21年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだけでは難しい行事、慰問受け入れについては隣接の施設と合同で開催できているので、利用者の方々に喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線、及び北上金ヶ崎インターからやや西に入った閑静な場所に立地している。平成14年の開設時には地域の方々に十分に説明して納得をいただいた経緯もあり、地域の協力体制が整い、頻繁な交流が行なわれている。ボランティアの受け入れ体制ができていて訪問者も多い。隣接する同法人の特養とも良く連携がはかられ、効率的な相互互換のシステムができています。防災については特に配慮され1ユニット平屋であるが、行政からの補助もあり、すでにスプリンクラーが設置されていること、先の岩手・宮城地震の直後には職員、家族等からアンケートをとり、今後活かすよう努めていること、医療についても、立地しているこの施設から病院がやや遠いことへの配慮から、連携しているいわぶち脳神経クリニックの医師に毎週水曜日に回診していただき、全員受診していることも特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「我が家の暮らし三カ条」を具現化する為玄関ホール、リビングに提示している。また、職員会議においてOJTチェックリストを活用し、月の目標を計画して意識高揚を図っている。	管理者を含めた職員全員で作り上げた「暮らしの3ヶ条」を理念として、この具現化に向けて月1回の全員出席の職員会議や、日々のミーティングで内容を確認し合い、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、歌、踊り、幼稚園、小、中学校、地域の方々の慰問の都度、回覧し、地域の方々との交流に努めている。自治会主催の新年交賀会、水路清掃、道路草刈等には地域の一員として参加している。	敬老会へは地元での参加のほか、同法人の特養と合同で、施設内で独自に行なっている。地域の文化祭には作品を出品し、見学に出かけている。地域の清掃活動にも職員を中心に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主宰の「感染症対策」「介護技術」等の講習会には地域の方々にも連絡をしている。また、実習生の受け入れを行っている。(中学生、ニチイ学館等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で運営状況、活動報告を行い、行政、地域、家族の方々からの指導や、意見、要望等を参考に改善に向けた取り組みを行いサービスの向上に努めている。	北上市、金ヶ崎町役場、地域代表、家族代表、町の介護相談員などで構成される運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、施設の現状、利用者の動向、感染症対策などについて、話し合いが行なわれ、サービスの充実に努めている。	今後起こりうる火災をはじめ、震災などへの対応策などを話題として取り上げて行く必要があるものと考え、地元消防団などの代表も加えていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回、包括支援センター主催のケア会議の参加。また、月に1回の介護相談員2名来訪にて、情報交換、相談、意見交換を行っている。	地域包括支援センター主催のケア会議には職員は必ず出席し、地域の状況把握に努めている。また、金ヶ崎町独自の介護相談員制度により、1ヶ月に1回は相談員が来所され利用者との対話をされたり、職員と意見交換したり多方面の支援を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束廃止に向けて研修会を行い、正しく理解し自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	職員全員が外部の身体拘束排除のための研修を受けており、身体拘束の無い人格の尊厳を重視した介護を目指しており、入所時に本人・家族へは十分に説明している。現在まで身体拘束に類似した行為をしなればならないような事態はなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会での内部研修。また、発見シート、ヒヤリハットシートの活用により虐待が見過ごされない注意を払っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が窓口となり、社会福祉協議会と連携を取りながら、必要な関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できる体制である。また、職員は職場内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族の状況を理解した上で、不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行ってから契約を行っている。改定等についても説明を行い納得した上で同意して頂き、解約もよく話し合い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1度の相談員施設訪問。窓口投書箱を設置し相談苦情担当者、第3者機関を設けており問題が発生した都度、月1回開催の定例運営会議で検討して反映している。	1ヶ月に1回は町の介護相談員2人が来所され、情報交換を行っている。月1回の定例運営推進会議では家族から要望等が出された場合はよく検討し、対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題や改善点、意見等を職員会議、定例運営会議で職員の意見提案により、運営に反映させている。	管理者は職員の勤務実態をよく把握し、必要な事項は職員会議で検討し、働きやすい環境作りに努めている。一例として、入浴介助時の職員の身体的負担を軽減するよう最新の浴槽が設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度のチャレンジ目標の設定、シート作成、目標面接、自己管理、中間面接、相互評価、育成面接の実績により各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人一括でスケジュールを立て、年間行事計画に基づいて全員受講させている。また外部研修受講者は職場内研修にて報告。職員が資格を取得した際には奨励金制度も設けており、職員の意欲向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会、交換研修、ケア会議の参加や外部研修会等において情報、意見交換を積極的に行っている。また、事業者以外の人材の意見や経験もフルに活用して質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して利用できるように状態や既往歴等把握した上で本人の思いを受け止める為傾聴に心掛け、また、環境づくりにも配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、申込、追跡調査、契約時等に家族が抱える様々な問題や不安に対し、良く話を聞いて対応に心掛け、理解と安心が得られるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況、要望等を考慮し、最適なサービスを受けられることが最優先と考え支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であり、昔の習わし、行事食等教えてもらう場面があったり、掃除、料理等を一緒に行うなどコミュニケーションを図りながら支えあい暮らしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には状況報告を行い、情報を共有し本人のより良い支援に向け取り組んでいる。また、夏祭り、敬老会等のイベントには家族と一緒に食事をしながら、近況を話し合いながら支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	既往歴や習慣等に配慮し、本人の要望を取り入れ馴染みの場所にドライブに出掛けたり、馴染みの人がいつでも気軽に遊びに来れる環境づくり努めている。	地域で開催される文化祭、敬老会等に出来るだけ参加できるよう支援をしている。また、買い物同行、外食、ドライブに出かけるなど施設内に閉じこもらないように配慮されている。ボランティアの受け入れについても積極的である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、心身状態、トラブルの要因等を把握した上で、居間やホールには個々にくつろげる環境整備と、ドライブや行事等様々な活動を企画して、利用者同士の親睦を図っている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族が常に安心してサービスを受けられるように、契約中、終了関係なく必要時の情報提供、相談、支援に努めている。移り住む関係者とも良好な関係が図られている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図ることを重視し、その中で、表情、行動、会話から本人の思いを受け止め意向に応じた支援が出来るよう職員、関係者で情報を共有し取り組んでいる。	利用者のしぐさ、表情などから本人の意思をくみとり、その意向に沿うように努めている。食事のときなど穏やかで、落ち着いた空間の中で、楽しそうな雰囲気からも察知することができた。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしや思いを支援する上で、これまでの既往歴を把握する為、利用者、家族とコミュニケーションを図り情報収集に努めサービスの向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が情報を共有する為、申し送りやケース記録の確認と記録に努め把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見、要望を聞き、医師、看護師と連携を図りながら職員全員で個々のニーズに即した介護計画を作成している。	ケアプランの作成、見直しに当たっては、本人、家族の要望を聞き、毎週回診に来ていただくいわぶち脳神経クリニックの医師、法人の看護師、ケアマネジャーと協議している。最低3ヶ月に1度。また、必要により随時見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に関する様々な情報は個々のケース記録の記入、確認、把握により職員全員が共有し、日々話し合いながら介護計画の見直しを図っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活、医療連携体制の指定を受けており、柔軟な支援が図られる。また利用者、家族の要望等に配慮している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方々との交流。幼稚園、小学校訪問。スーパーでの買い物や温泉等での地元の方々との交流。安全対策として消防、警察への情報提供を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前からのかかりつけ医など複数の医療機関と連携を密にしている。家族からの要望があれば随時通院介助等対応している。	協力医には、いわぶち脳神経クリニック、歯科、外科等をお願いし、密接な連携を図っている。通院については、原則家族が行なうこととしているが、家族が都合がつかないときは規定の料金をいただいて、施設側で送迎を行なっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養には随時看護師がおり、毎日の申し送りや24時間連絡できる体制であり、日常の健康管理や医療支援を受けており、協働体制が確立している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院に至るまで、本人、家族の不安を軽減できるよう家族と相談しながら、医療関係者へ情報提供を行い、また、定期的に訪問し経過を聞くなど連携を図り支援している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応指針を定め、利用開始時に十分説明を行っている。状態の変化があるあるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに留意し十分話し合い、関係者全員で連携を図っている。	家族の希望があれば看取りの希望を確認し、同意書を頂いたうえで施設内で終末期の介護、看取りを行なえる体制はできており、その経験も持っている。また、ホームの対応指針を作成してある。ただし、医療行為が必要な事態になれば、協力病院である済生会北上病院等をお願いすることとしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が地域の消防による心配蘇生法、AEDの使用方法など、普通救命講習を修了している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の消防団、防災機器取り扱いメーカー指導のもと、災害訓練を行っている。地域の方々とは日頃声がけをして協力を得ている。隣接の施設内には防火水槽も設置されている。	本施設は一般の人家からやや離れていることもあり、緊急時の支援が短時間で得られにくい状況などから、1ユニットの平屋建ではあるが、町の協力を得ながら火災等の災害防止の観点から本体の建築後、スプリンクラーを設置した。特養と合同で年2回避難訓練を実施、地域との災害時における協定書を締結している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	OJTチェックリスト(日常実践している介護業務内容を意識的 point 検しながら自己意識を高めることを目的としている point 検表)を活用し、月の目標に取り入れ取り組んでいる。	OJTチェックリスト法を取り入れ、絶えず自己評価と相互評価を行い、質の高い介護をめざしている。人格の尊重、プライバシーの保護には特に配慮されている。これが入浴介助、排泄介助等に生かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言動、表情を見逃さず、ゆっくり話を聞きながら思いを受け止め、本人の意向に応じている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先せず、常に利用者の立場になって、状況に応じた対応を念頭に心がけるよう、意思統一を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回定期的に理容師が訪問し、利用している。また、利用者と一緒に季節に応じた服を選んだり、整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を作り、配膳、盛り付け、片付けを行い、一体となり活動している。時には野外で食べたり、外食したり、施設内でバイキングを楽しんだり、季節の食材も沢山取り入れている。	利用者の希望に沿えるようメニューを考え、出来る方には調理の手伝いをお願いし、食材には施設の畑で収穫した野菜を使うなど、変化のある食事が楽しめるように配慮されている。隣接の特養施設との合同でバイキングやソバ打ちなど、職員も共に楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の栄養士に指導を受け、職員はそれぞれのチェック表をもとに観察、把握に努め、個々のペースで食事や水分がとれるよう工夫している。定期的に体重測定を行い体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修会に参加し、職員全員が重要性を理解し、個々の状態に応じた援助に取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、習慣を把握したうえで、残存機能の活用と、適切なおむつ利用に心がけ、不快感なく快適な暮らしができるよう、布パンツの使用拡大に向け取り組んでいる。	簡易な使い捨ての紙おむつから布製のおむつに替えることにより、失敗する方が少なくなり良い結果をもたらしていることが特徴的である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多めに摂るようよびかけたり、お茶の時間には個々の好きな飲み物を聞き用意している。食事には野菜を多く取り入れている。また、毎日排便確認を行い個々に合った対応をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の際は本人に尋ね本人の要望に対応している。また、安心して気持ち良く入浴できるように、浴槽の改善を行っている。	入浴は希望優先であるが、おおむね2日に1回の入浴で夕方の方が多い。朝10時のバイタルチェック(血圧、体温など)により、足浴、清拭、洗髪だけの対応もある。職員の提案により、浴槽の改善を行い、利用者も次第に慣れてきた。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促がす為に昼の過ごし方を工夫し、心身状態の把握、観察に努め、寝具、室温、照明等落ち着く居室の環境づくり。居間にこたつ、ソファを置いていつでも利用し、くつろげるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で確認を行い、看護師、係りつけ医と連携を図り体調の変化に留意している。服薬は各個人毎、1回毎に管理をして都度職員が手渡しで行い利用者の症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味、経験を活かし、無理なく役割りが日課になっている。個々に応じて役割や活動が楽しく感じられるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて買い物、外食、散歩、ドライブ等の支援や家族との外出、外泊等の支援を行っている。また、親睦を図る為に全員で外食やドライブ、温泉、運動会見学等を行っている。	施設内に閉じこもらない生活を目指して、声かけの中から買い物の同行、散歩、ドライブ、温泉めぐりなどを企画し、実践している。お盆、正月の一時帰宅も支援している。近隣の幼稚園、小学校、の運動会や学芸会等の見学にも出かけている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によりお金を所持している方、預かり管理している方とおります。本人の要望を尋ねながら一緒に買い物に行くなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より申し出があった場合は職員が電話を取り次ぐなど、気兼ねなくかけられるよう支援している。また、手紙は希望者に対し、職員が手伝いしながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、居間からは外の景色が見られ採光も良く、また、季節に応じてみずき団子、ひな壇、七夕飾り、ツリー等飾ったり、常に季節の草花を生けている。浴室、トイレはプライバシーが守られている。	照明は暖色系の適度な明るさで、室温も適切で穏やかに過ごせる空間づくりに配慮されている。また季節の花を飾ったり、小正月にはみずきだんご作り、クリスマス会など、季節ごとの行事を多く取り入れ、変化のある生活ができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、ホールには、テレビ、堀コタツ、リクライニング椅子、ソファなどあり自由に利用できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ利用者の好きな花や絵、写真などを飾って自分にあった雰囲気づくりに努めている。家からは使い慣れた物は自由に持ち込む事が出来るように配慮している。	私物の持込は自由で、利用者によっては大きな仏壇を持ち込んだり、テレビ、肘掛いす、家族の写真、位牌など多彩である。今までの生活の延長として思い思いに暮らせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室が分かりやすいよう工夫している。また、居室内において安全に行動ができるように個々に応じた対応に努めている。		